

明石公園の持続的な賑わいづくりについて

2026年3月15日（日）、明石公園内の花と緑のまちづくりセンターで第7回「明石公園みんなの未来ミーティング」を開催しました。今回のミーティングでは、明石公園における「持続的な賑わい」のあり方について、意見交換を行いました。そのなかで参加者は、たんに来園者数の増加を目指すのではなく、現在の落ち着いた利用環境や、多様な利用者がそれぞれの目的で過ごせる空間を維持することの重要性を見出しました。また、大阪府などの事例をもとに、公園管理への民間事業者の参入により、企画力や発信力を活かしたイベントの実施やサービスの充実を図ることで、公園の魅力向上と収益の還元を両立できる可能性も共有しました。



こうした議論から、明石公園における「賑わい」とは一過性の集客ではなく、公園の価値や環境を損なわない形で、日常的な利用と多様な活動が積み重なる状態として捉えるべきであることを確認しました。今後は、明石公園の多様で本質的な価値をふまえて、どのような利用や機能を取り入れていくのかについて、未来ミーティングでも継続的に意見交換していきます。

樹木管理の方向性について

樹木管理については、生物多様性の保全と安全対策の両立をめぐり、重要な論点が提示されました。現状の照葉樹林は一定の多様性を維持しており、単純な伐採による里山化は、かえって生態系を損なう可能性があるとの指摘がありました。一方で、巨木化した樹木による倒木リスクへの対応は喫緊の課題であり、間伐やゾーニングによる段階的な管理の必要性も共有されました。

また、植生転換を行う場合には、地域由来の種子を採取・育成するしくみや、それを担う体制の整備が不可欠であることも共有しました。今後は、公園の利用状況と環境特性を踏まえたうえで、ゾーンごとに適切な管理方法を検討していく必要があります。

明石公園における取り組みの報告

旧市立図書館跡地の活用について

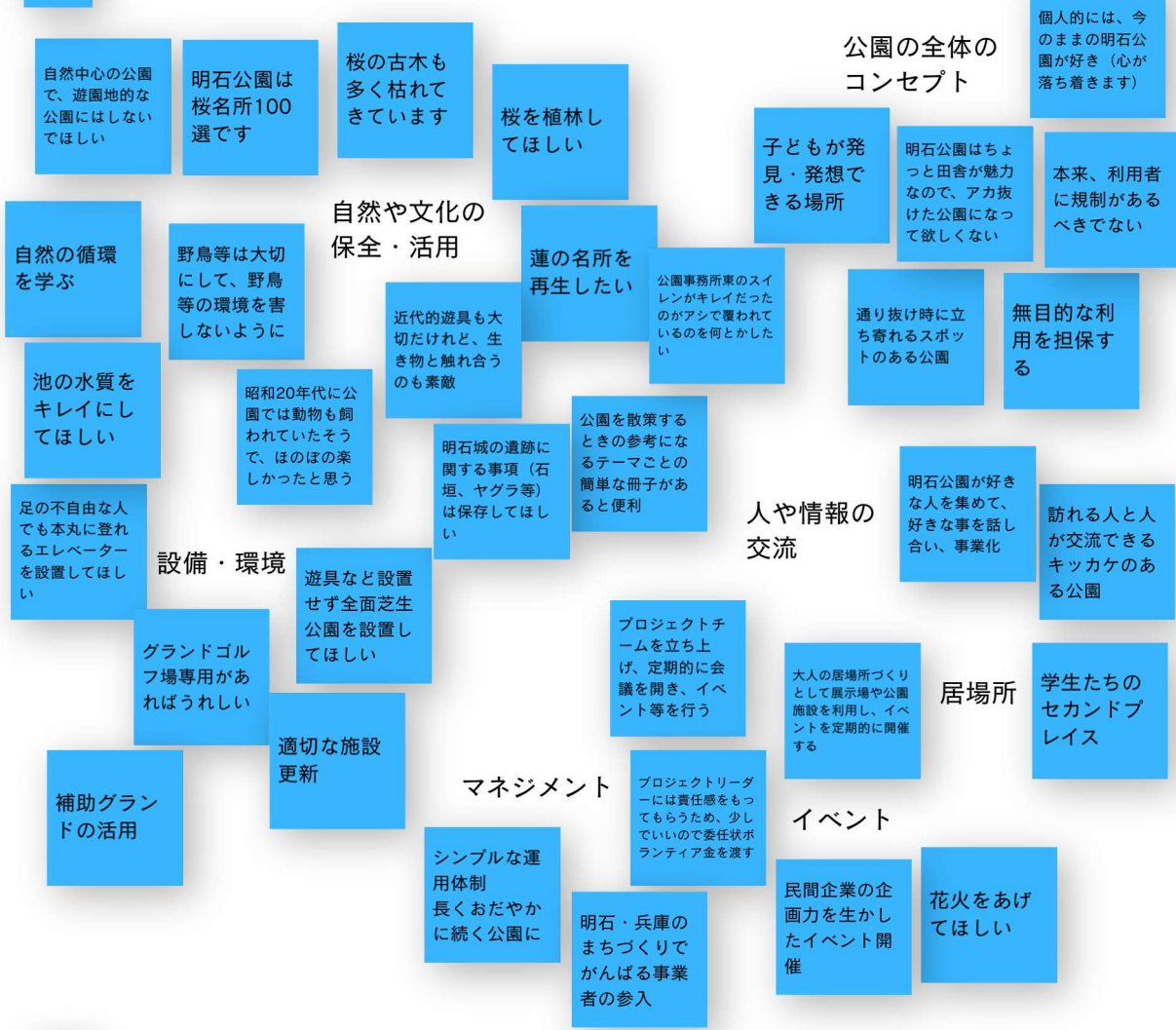
旧市立図書館跡地について明石市は、市民参加のワークショップやパブリックコメントをふまえ、多目的ホールや自然体験、学習・交流、防災機能などを備えた施設整備を検討しています。一方で、地下構造の再利用や工法の見直しにより、事業スケジュールの調整が必要となっている状況です。

園路舗装について

兵庫県加古川土木事務所が、公園内での園路舗装の改修や石垣の除草について報告を行いました。公園の正面入り口の舗装を改修し、バリアフリー性が向上しています。また透水性舗装の導入により、雨天時でも利用しやすい環境が実現しました。石垣の間に繁茂していた草や樹木の除去作業も実施し、完了しています。城跡の景観保全のため、今後も適切に維持管理作業を行っていきます。

賑わいづくりに関するすべての意見

賑わいづくりに向けた展望・希望



賑わいづくりに関する疑問・質問

